

管内小・中学校研究主任研修会



4月25日(火)に、校内研究の方法や研究推進に係る諸課題等について学び、研究主任としての指導力の向上を図ること、各校の研究活動の充実と教員の授業力の向上に資することを目的とし、管内小・中学校研究主任研修会を実施しました。当研修は、新任の研究主任を対象とした基本的な研究の進め方にかかわる内容と、本県の「確かな学力育成プロジェクト」推進にかかわる内容の、2つの柱で行われました。研修会の様子を紹介します。

講義①

「基本的な研究の進め方と研究主任の役割」

《県南教育事務所 沢田 伸久 主任指導主事》

- 校内研究とは、学校において、児童生徒の教育のために、教職員が共同で行う研究（最終的には、学校教育目標の具現化を目指すもの）である。
- 研究主任の主な役割は、「学校の研究計画の立案・実施」、「連絡調整」、「指導・助言」であり、研究推進のコーディネーター役として、学校全体を見る目が求められる。
- 一年間の校内研究の流れを見通し、PDCA サイクルを意識しながら、「確かな学力育成プロジェクト」(下図)の推進を図ることが大切である。

講義②

「本県が目指す学力向上の組織的取組」

《岩手県教育委員会事務局 学校教育室学力向上担当 佃 智之 主任指導主事》

- 「学校全体で育成を目指す資質・能力」は、学習指導要領解説総則編に記載がある「確かな学力の育成」の趣旨と合っているかどうかが大切。(作成したプランをチェックしてほしい。)
- 諸調査結果の報告書を活用して、結果の分析の仕方や各教科等において身に付けさせたい資質・能力について学ぶ場を設けることは、全教職員で共通理解を図る上で非常に重要である。
- 全県共通取組の推進に向け、組織的・計画的に取り組むことが重要である。「家庭学習の内容の充実と習慣化」については、児童生徒の発達段階を考慮しながら、自律した学習者の育成を目指すものにしていく必要がある。



実践発表

「検証改善サイクルモデル校の取組」

《一関市立桜町中学校 研究主任 佐藤 哲也 先生》

- 校長のリーダーシップのもと、校内の組織を再構築することで研究部の活性化を図ったり、管理職と主任層、教職員の連携を意識し、生徒集会や職員会議等で研究主任からの講話やアドバイスを図ったりしている。
- 「授業の基本」(3分前学習、授業の雰囲気作り等)の意義の共通理解・徹底を図ったり、各教科で考えをアウトプットさせる活動を意図的にセッティングしたりすることで、資質・能力の向上を目指している。(ICTの積極的活用を含む。)
- 令和5年度は、昨年度一年間の成果と課題を踏まえ、研究主題と学校全体で育成を目指す資質・能力に変更を加えた。全教職員での共通理解をさらに深めることで、生徒に確かな学力の育成を図っていききたい。

アンケートから (一部抜粋)

- ・カリキュラム・マネジメントの重要性を改めて感じました。「確かな学力育成プラン」については、教務主任とも相談しながら、学校全体で組織的に推進していこうと思います。
- ・桜町中学校の実践発表がとても具体的であり、これまでどのように取り組んできたのかがよく分かりました。校内研究会では、「学校全体で育成を目指す資質・能力」について生徒の姿で話し合うために、動画等を用いる工夫が非常に参考になりました。

「確かな学力」の育成に関わって

<目標>	小学校	中学校
各学校の組織的取組を土台として、日々の授業や諸調査から明らかになった児童生徒の「つまずき」に着目し、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善に生かすことを通じて、児童生徒一人ひとりの資質・能力を育成する。	R5目標値	R5目標値
◇授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合 【全国学調児童生徒質問紙(積極肯定回答)】	41.4%	40.6%
◇学校の授業がよくわかる児童生徒の割合 【県学調児童生徒質問紙(積極肯定回答)】	50.0%	35.0%

県南教育事務所は、「確かな学力の育成」にかかわる指標を上記のとおり設定しています。各種研修会の実施や学校訪問等をとおして、各学校の校内研究にかかわる組織的な取組や、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善に関わる取組を力強く支援して参ります。